



平成26年4月16日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（4月15日観測）

4月15日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1. 噴火の状況

北側の火口は拡大し、間欠的に白色及び灰色の噴煙を噴出していた。前回(3月24日)の観測により確認された新たな火口は認められなかった。

南側の火口は、爆発を伴う薄い褐色の噴煙及び溶岩片を噴出していた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

2. 新たに形成された陸地の状況

流出した溶岩により新たに形成された陸地は、3月24日と比較して南方向に拡大していた。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授から「先月に比べて爆発回数は減ってはいるものの、南西方向に広い変色水域もあり、噴火活動に顕著な変化は認められない。今後もしばらくの間は小規模な爆発と溶岩の流出が続くものと考えられる。」とのコメントが得られた。

4月15日時点での形状（暫定値）

- ・東西：約 1150 m (3月24日時点 東西：約 1150 m)
- ・南北：約 950 m (3月24日時点 南北：約 850 m)
- ・面積：約 0.75 平方 km、東京ドームの約 16 倍に相当
(3月24日時点 約 0.7 平方 km 東京ドームの約 15 倍)



図1 西之島の全景写真（4月15日撮影）



図2 北側の火口は拡大した。3月24日に確認された新たな火口は認められない。(4月15日撮影)

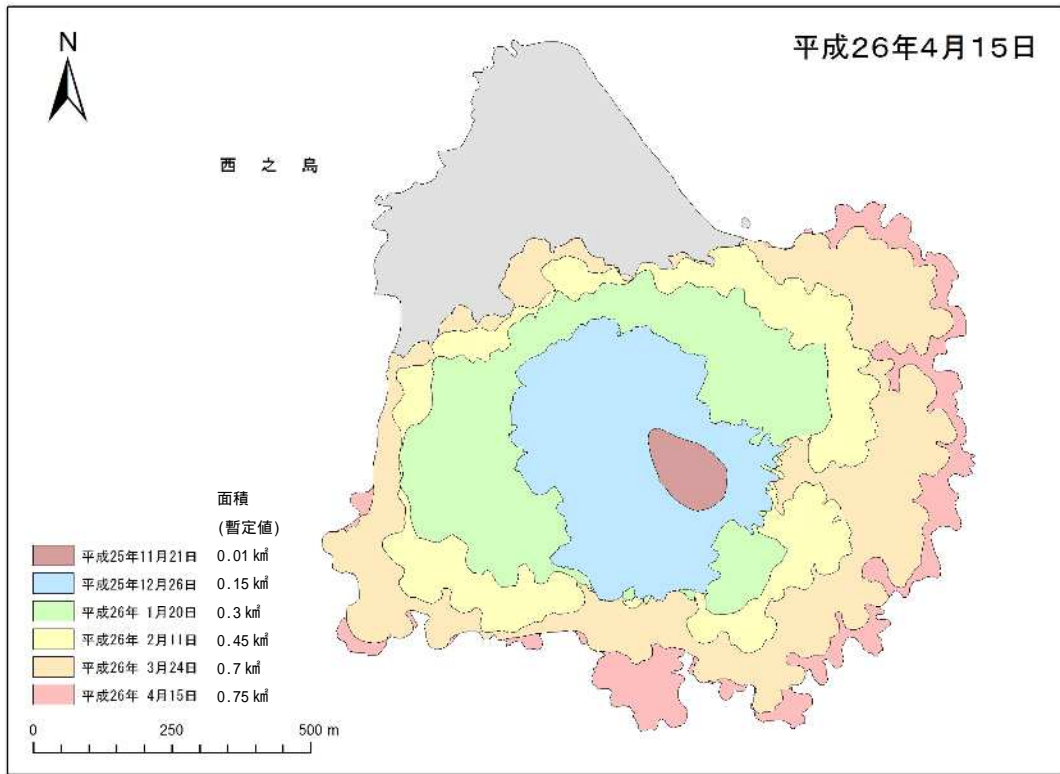


図3 新たに形成された陸地部分の形状変化の様子